



2024年5月20日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ハ マ キ ョ ウ レ ッ ク ス  
代 表 者 の 代 表 取 締 役 大 須 賀 秀 徳  
役 職 氏 名 社 長  
(コード番号：9037 東証プライム)  
執 行 役 員  
問 合 せ 先 管 理 本 部 長 兼 竹 内 義 之  
経 営 企 画 室 長  
(TEL. 053-444-0055)

### 新中期経営計画について（新3ヵ年計画）

2024年5月20日開催の当社取締役会におきまして、更なる業績の向上を目指した新中期経営計画(2024年4月～2027年3月)を策定・決議いたしましたのでお知らせいたします。

当社は、日々変化する社会環境に応じた高品質・最適な物流を提案し、当社の主力であります物流センター事業（3PL事業）を中心に更なる成長を図ってまいります。

当社において重要なキーワードであります、「日々収支」「全員参加」「コミュニケーション」の既存路線を踏襲した上で、更なる高みを目指し挑戦を続けてまいります。

以 上

**新・中期経営計画  
2024年度～2026年度**

**株式会社ハマキョウレックス**

東京証券取引所プライム市場：9037



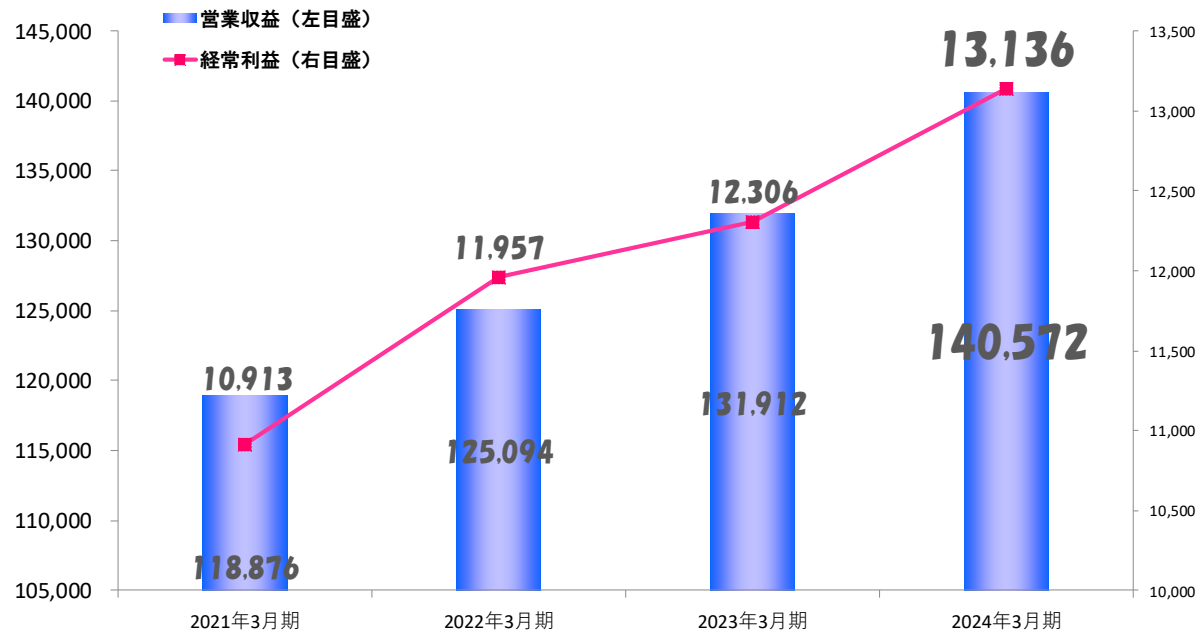
- I. 中期経営計画の振り返り  
2021年度～2023年度**
- II. 新・中期経営計画  
2024年度～2026年度**
- III. 資本政策**
- IV. 参考情報**

# I. 中期経営計画の振り返り 2021年度～2023年度

# I. 中期経営計画の振り返り

中期経営計画

	2021年3月期	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期	
	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
営業収益	118,876	125,000	125,094	130,000	131,912	135,000	140,572
営業利益	10,563	11,000	11,114	11,500	11,548	12,100	12,569
経常利益	10,913	11,500	11,957	11,800	12,306	12,400	13,136
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,427	6,750	7,117	6,900	7,400	7,200	8,305
1株当たり当期純利益	341.69	358.84	378.84	366.81	393.92	382.76	442.57
営業収益経常利益率	9.2%	9.2%	9.6%	9.1%	9.3%	9.2%	9.3%
設備投資計画	115億円	90億円	88億円	90億円	71億円	90億円	137億円
自己資本利益率 (ROE)	10.1%	10%以上	10.3%	10%以上	9.9%	10%以上	10.3%



## 最終年度売上高

**18.3%成長**

3PL事業の新規獲得を軸に  
新型コロナ禍も継続成長を実現

## 最終年度経常利益

**20.4%成長**

原油価格高騰や人件費上昇等が  
あったが、「日々収支」「全員参加」  
「コミュニケーション」で生産性を向上

## II. 新・中期経営計画 2024年度～2026年度

## II-1. 基本理念

- (1) **和・コミュニケーションを大切にした、全員参加の経営で、高いコスト意識を持ち、コスト競争力のある物流会社を目指します。**
- (2) **お客様の物流利益の創出(≒物流コストの削減)に貢献し、お客様とともに繁栄するという心、パートナーシップを大切にしていまいります。**
- (3) **従来のかげにとらわれず、常に高い目標を具体的に掲げ、従業員全員の知恵を結集してその達成を実現していまいります。**

**「日々収支」「全員参加」「コミュニケーション」のキーワードのもと更なる高みを目指し挑戦を続けてまいります。**

### (1) 3PL事業を軸とする事業展開

- ・積極的な設備投資
- ・物流センターのDX化、省人化
- ・EC物流の拡大（ラストワンマイル）と自社配送の取り組み

### (2) 3PL事業とグループ会社の融合

- ・近物レックスの貨物ターミナルを物流センター化
- ・3PL配送のグループシナジーを強化

### (3) 新規顧客獲得に向けた取り組み

- ・3PL新規受託件数年間目標15社
- ・国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開

### (4) 貨物自動車運送事業の取り組み

- ・物量増加の取り組み
- ・労働環境改善、運賃是正の取り組み

### (5) M&Aの継続

- ・3PL事業、貨物自動車運送事業においてシナジー効果を創出できるM&Aの取り組み

### (6) ESGの取り組み強化

- ・CO<sub>2</sub>排出量削減、SDGsの推進





# II-III. 数値目標

## 最終年度売上高 **14.5%** 成長

ニーズに応じた最新最適の提案をより一層強化することで、3PL事業の新規獲得を成長ドライバーとした継続的な成長を目指す。

## 最終年度経常利益 **18.8%** 成長

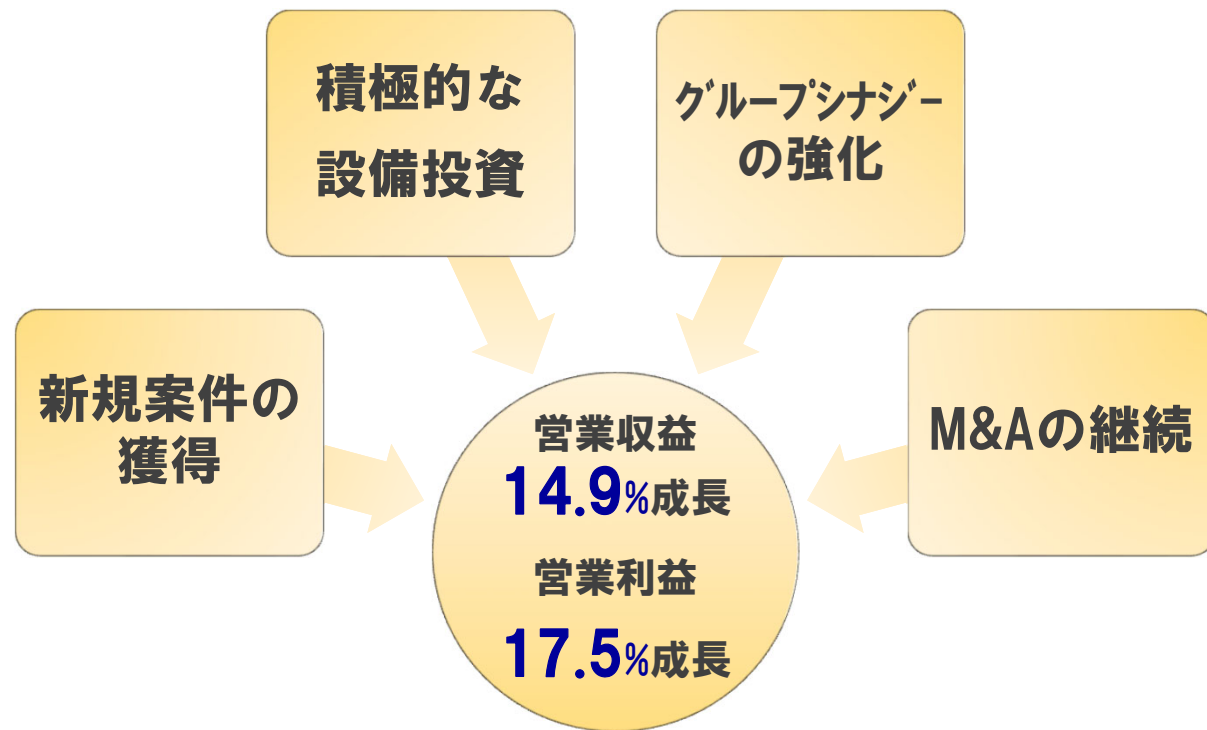
様々なコスト上昇や制度改正に、「日々収支」「全員参加」「コミュニケーション」で取り組み、生産性向上やDX推進など効率化を進める。

### 新・中期経営計画

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	
	実績	計画	計画	計画	2024年3月比 (増加率)
営業収益 (前年比)	140,572	146,000 (3.9%)	153,000 (4.8%)	161,000 (5.2%)	14.5%
営業利益 (前年比)	12,569	12,900 (2.6%)	13,700 (6.2%)	14,700 (7.3%)	17.0%
経常利益 (前年比)	13,136	13,800 (5.1%)	14,600 (5.8%)	15,600 (6.8%)	18.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (前年比)	8,305	8,600 (3.6%)	9,050 (5.2%)	9,650 (6.6%)	16.2%
1株当たり当期純利益	442.57	458.25	482.22	514.20	16.1%
営業収益経常利益率	9.3%	9.5%	9.5%	9.7%	-
設備投資計画	137億円	120億円	120億円	120億円	-
自己資本利益率 (ROE)	10.3%	10%以上	10%以上	10%以上	-

# II-IV. 物流センター事業

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	
	実績	計画	計画	計画	2024年3月比 (増加率)
営業収益 (前年比)	89,902	93,300 (3.8%)	97,800 (4.8%)	103,300 (5.6%)	14.9%
営業利益 (前年比)	10,641	11,100 (4.3%)	11,700 (5.4%)	12,500 (6.8%)	17.5%

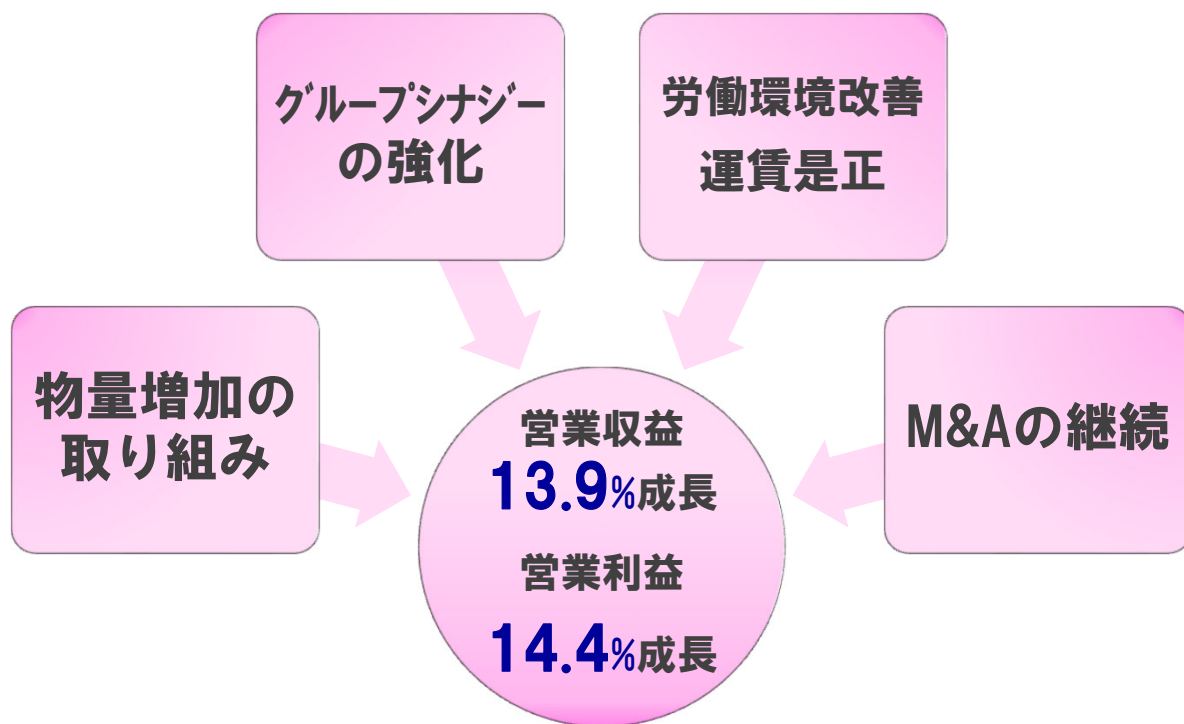


## 強みを活かした継続成長

- ・ センター運営の更なる充実でお客様の満足度向上に努める
- ・ 既存の組織・職務にとらわれず、グループ全員参加での新規営業で毎期15社の新規案件獲得を目指す
- ・ 積極的な設備投資で自社センターの拡大とDX化、省人化を進め、収益力の強化を図る

# II-V. 貨物自動車運送事業

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期	
	実績	計画	計画	計画	2024年3月比 (増加率)
営業収益 (前年比)	50,670	52,700 (4.0%)	55,200 (4.7%)	57,700 (4.5%)	13.9%
営業利益 (前年比)	1,923	1,800 (▲6.4%)	2,000 (11.1%)	2,200 (10.0%)	14.4%

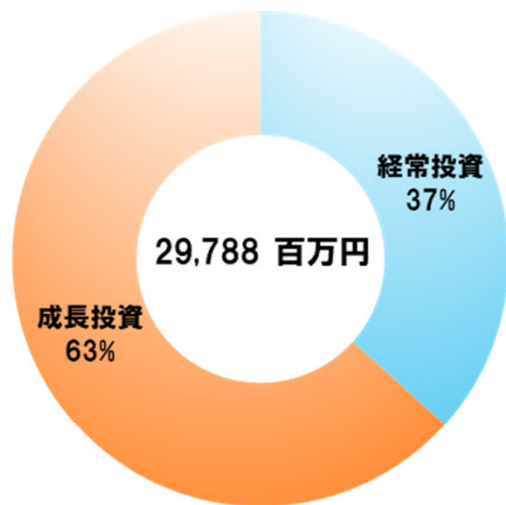


## 輸送ネットワークを 最大限に活用

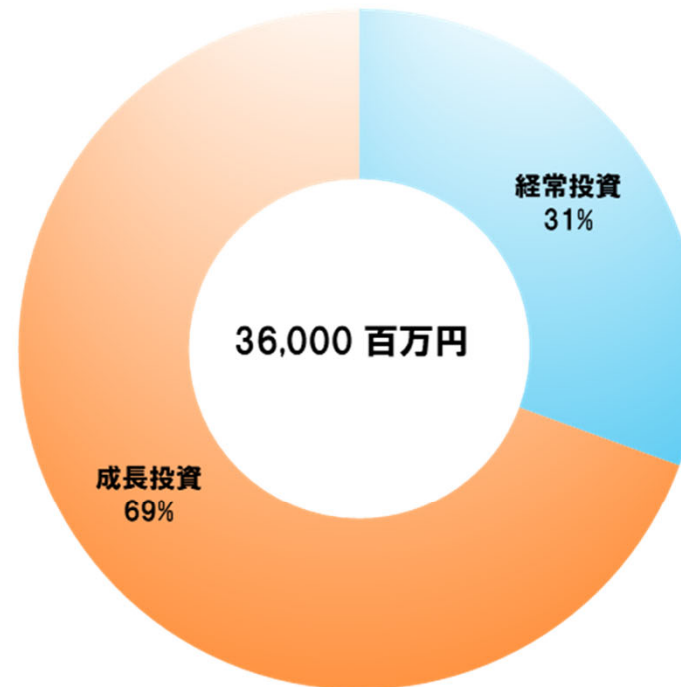
- ・ 新規営業の強化、グループ内配送の促進で物量増加、積載率を向上
- ・ 3PL配送のグループシナジー強化で相乗効果を獲得
- ・ 適正運賃收受による労働環境の継続的な改善

## 成長投資の拡大

2021年度～2023年度



2024年度～2026年度



### 経常投資

- 車両の定期更新
- 倉庫設備の営繕
- マテハン機器の更新
- その他

### 成長投資

- 新センター建設・中古施設の購入
- 自動搬送ロボ、画像認証システムなどDX化
- M&A
- その他



# II-VII. DX活動

お客様の物流利益の創出に貢献するため、“新しい物流”に挑戦いたします



ゲート・アソート・システム(GAS)



リニソート



シャッター・アソート・システム (SAS)



RFIDゲート

<b>AMR</b> Autonomous Mobile Robot	<b>AGV</b> Automatic Guided Vehicle	<b>ROBOT-ARM</b>
<b>自律走行搬送ロボット</b>	<b>無人搬送ロボット</b>	<b>パレタイズロボット</b>
<p>作業者の動線を短縮</p> <p>2022年 浜松近郊センター エントリー!!</p> <p>人と共存する技術「SLAM」 Simultaneous Localization and Mapping</p> 	<p>リフト&amp;作業者 → 無人AGV</p> <p>省人化対策 作業の自動化 作業の効率化 作業者の負担軽減 ...etc</p> 	<p>自動化 効率化 省人化</p> <p>作業負荷軽減 人的ミス削減 生産性向上</p> 

## II-VIII. 人的資本に関する取り組み

### (1) 従業員の能力開発・スキル向上

- ・OJTを中心とした人材育成
- ・経営層との対話型研修「大須賀塾」を通じて、3つのキーワードを全従業員で深化
- ・「HMK塾」「センター長試験」を通じた次世代リーダーの育成を強化

### (2) ワークライフバランスの向上

- ・育児休業や産前産後休業などの諸制度の周知徹底
- ・出産や子育てによる退職者についての再雇用制度の実施
- ・年次有給休暇取得率の向上

### (3) 多様性の確保

- ・性別や年齢、国籍、雇用形態等に関わらず、属性に依ることのない積極的採用
- ・様々な価値観や考え方を積極的に取り込み、組織の力を最大限に発揮

### (4) 賃金の向上

- ・自社の状況を踏まえた適切な方法による賃金の引上げ
- ・従業員への持続的な還元

# II-IX. ESGの取り組み

物流事業を通じて、持続可能な社会に貢献すべく、取り組みを推進いたします。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

### 環境

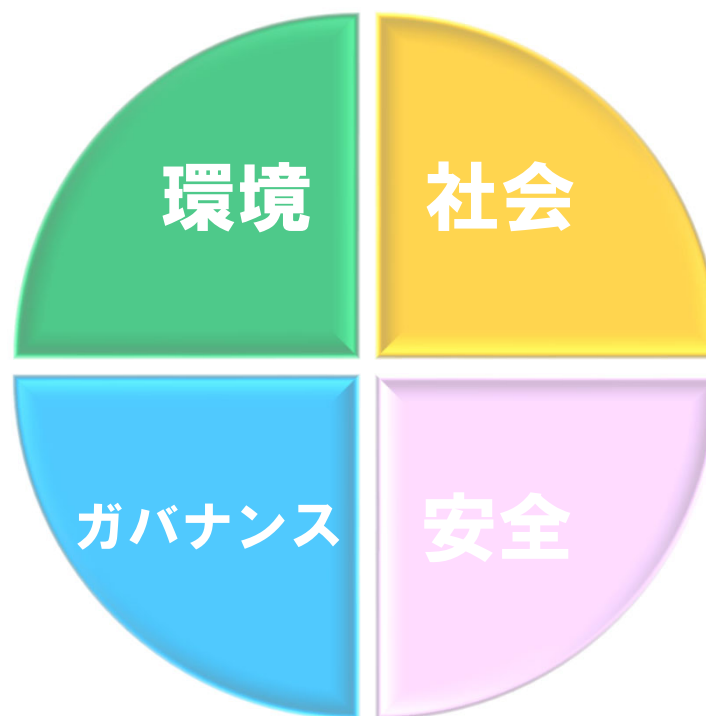


- CO<sub>2</sub>排出量削減
- 自家消費型太陽光導入
- 輸送の効率化
- 環境負荷低減資材の活用

### ガバナンス



- 迅速透明な経営判断
- 情報開示の充実
- コンプライアンス・マインドの向上



### 社会



- 労働環境の継続的な改善
- 地域社会との共生  
(防災協定・納涼祭等)
- 従業員参加型の寄付活動
- ドローン実証実験

### 安全



- 交通事故の撲滅
- ドライバー教育の徹底
- 労働事故撲滅
- PDCAサイクルによる安全管理体制

# III. 資本政策



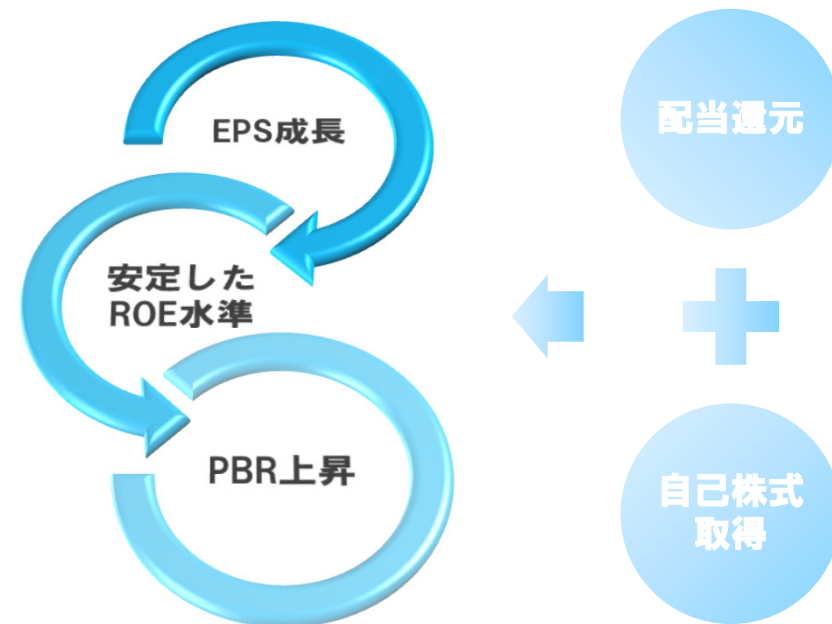
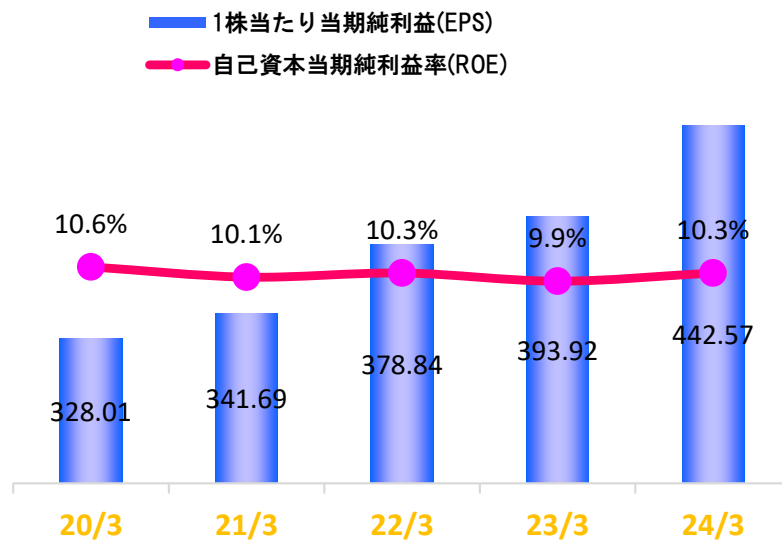
# III-1. 資本コストを意識した経営

当社は1株当たり当期純利益(EPS)の成長と自己資本当期純利益率(ROE)10%水準を継続して達成しております。当社では株主資本コストを6%ほどと捉えており、株主の皆様に応える資本効率を実現できていると考えております。

一方で株価純資産倍率(PBR)は1倍を下回る水準で推移していることから、継続・安定した事業成長に適進するとともに、株主還元のさらなる充実を進め、当社の成長を適切に評価いただけることを目指し、PBR水準の向上に取り組みます。

	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3
1株当たり当期純利益(円) [EPS]	328.01	341.69	378.84	393.92	442.57
自己資本当期純利益率(%) [ROE]	10.6	10.1	10.3	9.9	10.3

1株当たり当期純利益(円)

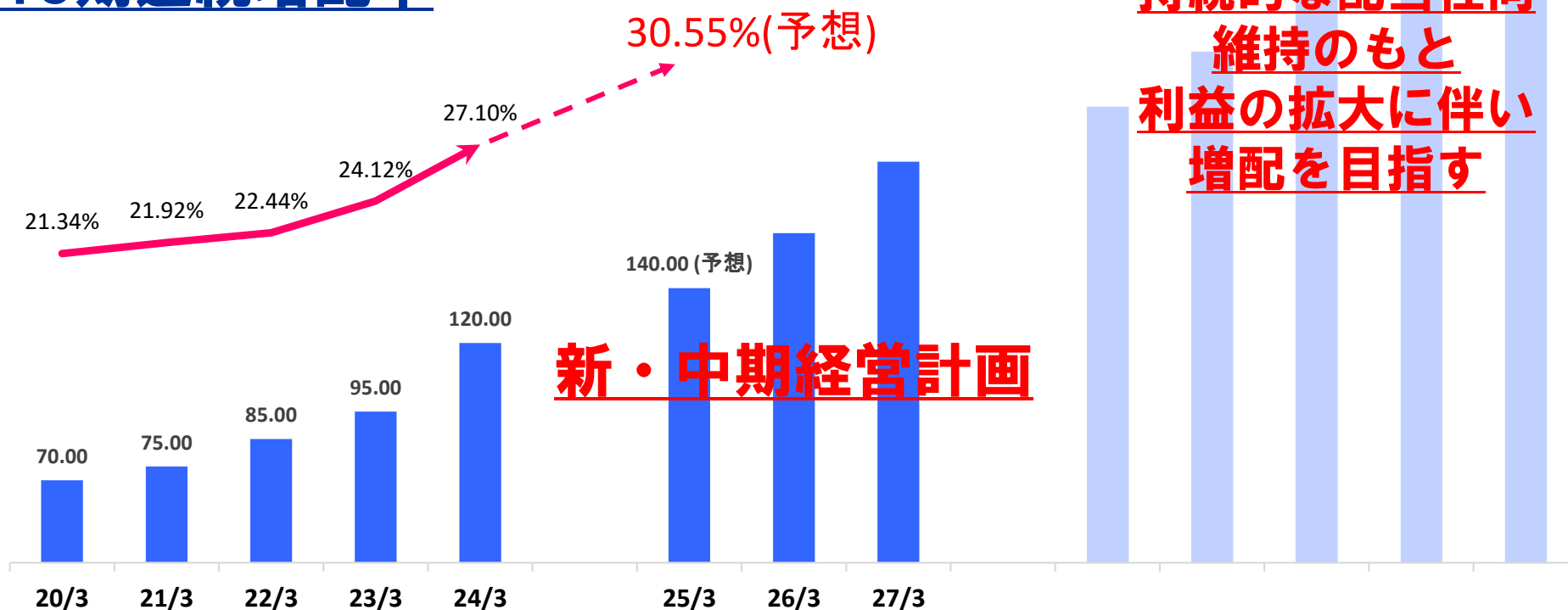


# III-II. 配当方針

## 1株当たり配当金（円）

■ 配当金    → 配当性向

**18期連続増配中**



# I R 関係問合せ先・担当者

---

- **執行役員**  
**管理本部長兼経営企画室長**      **竹内 義之**
  - **経営企画室課長**      **河島 康男**
- TEL 053-444-0054**



#### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。